

桓武天皇陵

〔深草の郷中往還道、谷口村の後山にあり。土人谷口氏が家より此陵に至るなり〕

延喜式日

柏原陵は平安宮に御宇まします桓武天皇なり。山城国紀伊郡にあり、兆域東八町西三町南五町北六町、

丑寅の角の二つの岑一つの谷を加ふ、守戸五烟と云々。

江次第日

稲荷山の南の野

拾芥抄日

伏見山にあり、東辺より二町許り入て稲荷山の南の野にあり。

山槐記日

伏見山松原の中なり。

編年集日

桓武天皇、諱は日本根子皇統珍照尊、又山部親王といふ、光仁帝第一の皇子なり。延暦三年都を山州長岡

に遷し、同十三年十一月廿一日都を山城国平安城に遷す、同二十五年三月十七日崩御まします、山城国柏原の陵に

葬り奉る、柏原天皇と号すと云々。

類聚国史日

延暦二十五年三月辛巳天皇崩す、癸未の日山城国葛野郡宇太野を以て山陵の地とし給ふ。其時西北の山

に火あつておのづから熾る日赤して光なし、大井、比叟、小野、栗栖野等の山々共に焼る烟灰四方に満て京中昼昏

し。上思慮ありて定むる所の山陵の地加茂太神に近し、疑ふらくは是神威災を致すなりとて、即ち卜筮を決するに

果して其崇りあり。上曰は、初め山陵を卜するに筮従ふて亀従はず、今災異頻に来る、慎ざるべけんやとて、祈祷

あれば火災立所に鎮る。

されば桓武帝は今の京城を闢き給ひし聖主にして、平安城百王の冠たり、今時一千有余載の星霜を歴れども遷都なきは、
いまだ中華にもそのためしを聴ず、白麟黄龍の瑞はあらざれども、天下の四民泰平の化に浴し、幸に皇城の市に都会し
て雑貨を交易し、あるは雲水の勝を訪て神窟仏壟を遊観するも、みな皇徳の彰明にして、天慶に■り、億年を彌らんと
ぞおぼへける。

車塚くるまづか 「右陵より亥子の間一町許山の岸にあり、是天皇御葬の鳳輦を蔵る所なりと。今掘平て畠となすといへども名
は存す」

神輿墳みこしづか 「谷口民居のひがし一町ばかり、大路の南にあり。伝云、嘉祥寺鎮守の神輿をこゝに埋むといふ。愚按、鎮
守杜の旧跡なり。」

柏原野かしはらの 「谷口の西の野をいふ。桓武帝を柏原天皇と号す。御陵を柏原陵ともいふ。延暦十四年八月天子柏原野に遊
獵ある由、類聚国史に見へたり。」

霧谷きりがたに〔谷口たにぐちのひがしに至つての総名なり〕

福聚山ふくじゆさん海宝寺かいほうじ〔藤森ふちのもりの南最上町もがみに、禅宗黄檗派ふちのもりにして無本寺むほんじなり。本尊觀世音たいしんごくは大清国南京人鐘聖玉しやうしやうぎよくの作なり、

脇士は左に虚空蔵、右に將軍地蔵を安置す、共に和作。開基は黄檗山十二世杲堂和尚かうだうなり。同山十三世竺菴和尚ちくあんも此地へ隱居して、当寺二世を法嗣す。黄檗山二代の隱居所なり。仏殿の額海宝禅寺がくかいほうぜんじと書す竺菴ちくあんの筆なり、此人大清国浙江湖州府徳清県の人なり、姓は陳氏といふ。

火光鏡〔南京なんきんの伝来にして当寺第一の什宝とす、希代の名器なり〕

鎮守天満宮ちんじゆてんまんぐう〔菅神御自作の尊像を安置す、靈験いちじるし〕